

2018年5月24日 5月26日

頭の整理 補遺3

竹濤軒

財務省が「書き換え前の決裁文書」（全文）と「森友学園等との交渉記録」を公開した。

https://www.mof.go.jp/public_relations/statement/other/search_kessaibunsho.htm

「森友学園等との交渉記録」にざっと目を通した。必読の資料である。この問題について単純な図式的な判断をしている人たちは、近畿財務局と籠池夫妻の会話の具体的な記録からまずこの問題の現場のリアリティを感じるべきであろう。

この文書群から近畿財務局の基本的態度が窺える。近畿財務局は、法令遵守を最優先し国有地の売買ということを決して軽んじてはいない。相手の暴言を含む強引で一方的な主張や執拗な要求を撥ね除けている（人によっては役所仕事は杓子定規で情が無いというのかもしれない）。安倍夫人も含めて政治家の介入に対しても一貫してこの態度を貫いている。

相手方に賃料や有益費や定期借地契約について何度説明しても十分な理解・納得が得られない、その状態のまま現実的なスケジュールに即して契約へ持ち込んだため、近畿財務局は、契約内容を覆そうとする籠池氏から繰り返し様々な批判と要求を受けることになる。その過程で籠池氏は、国土交通省本省や財務省本省（安倍夫人を通して）にも要求を上げているが、いずれも拒絶されている。

しかし、国有地の欠陥に関する相手方の指摘に対しては、瑕疵担保責任を意識して相手の言い分に妥協している。近畿財務局が値引きに応じたのは、隠れた瑕疵について籠池氏から指摘された時だけである。軟弱地盤の指摘に応じて賃料を引き下げ、除去していない地下埋設物の指摘（近畿財務局・大阪航空局と業者はその存在に部分的に気付いていたが、籠池氏にその情報が伝わっていなかった）に応じて売却価格を引き下げた。

これまで私が考察してきたことは、次の一点を除いてほとんど訂正する必要はないようである。本篇において、安倍夫人がこの案件の立ち上げに関して影響力を持ったかもしれないことを示唆したが、今回の資料群を見る限り、近畿財務局が安倍夫人の存在を考慮して森友学園を優遇した形跡は一切ない。

確かに、安倍夫人が学校用地を訪問した 2014 年 4 月以降に事がやや順調に動き出すようであるが、これは安倍夫人の影響ではない。その時点までに籠池氏が提示していた計画は、あまりに杜撰で非現実的であり、しかも近畿財務局や大阪府の話を全く聞こうとせず、近畿財務局も大阪府の担当者もほとんど困惑していたようである。それがこのころ新たなコンサル業者が間に入る事で、計画がやや現実的なものとなり、話も通じるようになったために事が動き出した。そのことが、今回の資料から窺える。

2015 年 1 月 9 日の近畿財務局と籠池理事長の面談の冒頭で、近畿財務局側は『産経 WEST』に掲載された森友学園関係の記事に言及する。私は、その現物を見ていないのだが、決裁文書によるとその記事には安倍夫人が森友学園の教育方針に感銘を受けたということが記されている。そのことを前提として議論が始まるのであるが、近畿財務局側は法令遵守を理由に籠池氏側の賃料値下げの要求をはっきり断っている (pp244-246)。

また、2015 年 7 月 30 日の近畿財務局と籠池理事長の面談でも、籠池理事長は、「瑞穂の国記念小学校」開設に関して、安倍首相、安倍首相夫人、自民党幹部が認識しており相談できると強調している。しかし、近畿財務局はやはり法令遵守の立場から賃料の値下げを断っている (pp630-631)。

その他、次のような点に気がついた。

安倍夫人付の谷氏と田村国有財産審理室長の関係について論じる向きがあるが、この文書を見る限り、谷氏と田村氏の二人の個人的関係に注目するのが適切なのか、疑問である。2015 年 11 月 10 日に谷氏がまず問い合わせたのは国有財産業務課の小林氏であるが、担当者不在として折り返し連絡となる。その後、2015 年 11 月 12 日に田村氏から谷氏に電話があり質問に回答している (pp721-722)。担当者から回答の電話を受けたというだけである。

森友学園が、撤去していない地下埋設物に初めて気がついたのは、2016 年 3 月 11 日であったことが記録されている。業者から 2015 年 9 月 4 日の会合メモを入手した籠池夫人が激昂して近畿財務局に電話をかけてきたとある (p.808)。この日が森友問題のターニングポイントである。

このような近畿財務局の苦勞のあとを消し去ろうとした財務省本省の行動はひどいものだと思う。しかし、その背景に安倍政権批判とこの国有地の売買を確たる根拠のない思い込みで結びつけようとした人々がいる事は忘れるべきではあるまい。作用反作用である。そんなことはつゆも考えず人を批判し続けられる幸福な「正義の味方」たちの発想を私は理解できない。まあ、このあともっと別の証拠が出てくるかもしれない。その時は、この感想は撤

回する。

もうついでに言ってしまう。私は、加計問題について安倍首相は嘘をついているのではないかと推測している。その前提で推測を重ねる。何故嘘をついたのか。私は思う。確たる根拠もなく国有財産をめぐる不正と安倍夫人を結びつけ、平然と罵りつづける「正義」の人たちとまともな話などできっこないと考えたからではないか。安倍首相は、街頭演説で「こんな人たち」と口走ってしまった。そんなことを言うべきではなかった。しかし、気持ちは理解できる。

→2018年5月26日に、加計学園は、愛媛県の諸資料が伝える2015年2月の安倍首相と加計学園理事長の面会は当時の担当者がでっち上げた作り話であると発表した。これで安倍首相が加計学園理事長に獣医学部設立の件でアドバイスをしたことを示す確たる証拠はなくなった。それでも私は、安倍首相がこの件を知らなかったとは思えない。勿論根拠のない邪推にすぎないのであるが、ここではその邪しまな当て推量に基づいて、私なりの安倍首相の心情の忖度として上の記述は残しておく。